

南都銀行の ISO14001:2015 自己適合宣言に関する第三者コメント

株式会社南都銀行の ISO14001:2015（以下、「ISO14001」という）自己適合宣言に際して、調査等によって確認した事実に基づき第三者の立場から下記のとおりコメントさせていただきます。

記

1. 現状確認方法

株式会社南都銀行により構築された環境マネジメントシステムや運用状況について、2002年2月以降12年の間、審査機関の第三者審査等により、ISO14001に適合していることが確認されておりました。

2014年2月の自己適合宣言以降の3年間は、毎年、関連する文書・記録類の確認、適用範囲内の主な対象部署及び施設訪問、また、環境管理責任者やISO事務局、ご担当者等へのインタビューに基づき、継続的改善の図られていることが確認できました。

2015年版規格への移行を踏まえた環境マネジメントシステムの必要な変更やその運用状況については、2017年2月からの「環境側面の洗い出し」から始まり、以降の「外部及び内部の課題」や「リスク及び機会」の決定等を経て運用されており、これらについて調査・検証を実施し、適合していることを確認致しました。

2. 現状確認結果と評価

省資源・省エネルギー活動については、適用範囲内でISO14001を活用して取り組んでいることはもとより、適用範囲外としている各営業店舗にも活動を広げた取組みを継続的に行っています。

銀行本来の金融機能を活かした活動としては、2017年4月からスタートした新中期経営計画の重点戦略である「地域の活性化」「4つの改革推進」「経営管理の高度化」を見据え、環境対応型金融商品の推進はもとより、地方公共団体や大学との連携、行内ではワークライフバランスの実現や事務の適正な効率化等による働き方の見直し等多岐にわたり、ISOともリンクした取組みの拡大を推進しています。

また、地域社会における環境保全活動としては、本店所在地が「古都奈良」であることも十分に認識し、地域と一体となった「木づかい運動」や「Yoshino Heart プロジェクト」の支援をはじめとした様々な取組みを、従来から展開してきています。

株式会社南都銀行の経営方針や活動に、規格改定の表現が追いついてきた感もあるほど、地域にも環境にも密着した取組みを継続してきており、大変評価できます。

3. 今後の課題と期待すること

この規格では、「組織の能力に影響を与える外部及び内部の課題」と関連して取組みを進めることが重要であるとされていますが、本業とリンクした取組みとすることも含め、組織の隅々までこの趣旨を周知・徹底されるよう期待します。

本業である銀行業としての取組みの中で、従来から、この規格の趣旨に見合った対応をされていることは確認済ですが、2024年6月に創立90周年を迎えるに当たり、本業と一体となった取組みを中心として地域、株主、お客様等多くのステークホルダーから、より一層信頼され親しまれるように、それぞれの役割、責任及び権限に応じてレベルアップを図り、継続的な改善に向け確実に取り組まれることを望みます。

※上記は環境マネジメントシステムの有効性を保証するものではありません。

2018年5月

SOMPOリスクアマネジメント株式会社

(調査担当者：小嶋 武男 CEAR 登録環境審査員 A26459)